特定非営利法人こども見守り隊(岐阜県)

岐阜県垂井町から参りました「特定非営利活動法人こ ども見守り隊」でございます。私が代表の渡邊です。隣に いますのが寺崎と申します。





活動地域の紹介

まず私たちのふるさと垂井町を紹介いたします。1,377 メートルを誇る 100 名山の一つ、伊吹山を バックに、このスライドのように川が5本流れています。春には、その中心の川に桜が咲いたり、あ

るいは初夏に向かって鯉のぼりが 350 匹ほど泳ぐのどかな田舎の町です。人口は約2万8,000人です。岐阜県の西にあたり、美濃国府の跡があり、中山道垂井宿が栄えた頃には隣の関ケ原町の近くに不破の関があったように、交通の要所でした。現在も国道 21 号線、東海道本線、あるいは県道岐阜関ヶ原線という幹線が走っています。物と人の行き来が多い町です。



団体概要

私たちの主たる活動の内容は、青パトを使っての子供の見守りですが、小学校が7校、中学校が2校、高校が1校あり、児童数、生徒数の合計が5月現在で約2,500名です。主に毎日、学校のある時間帯、特に下校時ですが、青パトを使って見守り活動を行っています。

もちろん、私たちは垂井町を中心に活動していますが、仲間として、ほとんど地元の方に参加して

いただているのが、一つの誇りです。現在、98 名になりました。だいたい会社を終えて、第二の人生に入った方が中心で、平均年齢は約 67 歳です。

子供の見守りの団体をつくっていく過程において、いろいろな手作り感のある内容をやってきました。それには背景がありまして、最初、私が平成20年に立ち上げたとき、それまで前身のボランティア団体はあったわけですが、非常に広範囲な活動の団体で、自分のやりたい内容とは少し違うので、仲間と独立しました。今の「こど



も見守り隊」に特化した活動、とりわけ青パトを使った活動をどうしてもやりたかったのです。なぜ

かというと、同じ地域をぐるぐる回ることによって、 間違いなく、犯罪は少なくなるという確信があったか らです。



活動(事業)内容・特長

まず、活動の最初として毎年春に安全祈願を行っています。青パトを使いますので、車両の無事故、 安全、それから隊員の健康を祈願します。しかし本当は、私たちから事故を出さないという決意も大 事なことです。

次のスライドは、夜になります。私たちの活動は子供の帰る昼間に行います。だいたい年間で 250 日稼働していますが、ほとんど昼間です。





なぜ、ここで夜を持って来たかといいますと、タイトルにありますように、どうしても現役の人につながりを持って、参加していただきたいという熱い思いがあります。ですから、「昼間は難しいけど、夜なら手伝えるよ」という方に参加してもらうために、こういう制度を持っています。月に1、2回程度ですが、地元の垂井警察署だけでなく、隣の地域、三つの警察署にご協力いただきながら、周辺エリアに活動を拡大しています。

それから、通学路は皆さんもご存じのように毎日、 その表情を変えます。活動には車を使っていますので、 この写真のように雪が降った場合は、車道と歩道の境 が分からなくなりまして、子供がはみ出して歩きます。 学校は2列歩行を指導していますが、なかなか、そう とばかりはいきません。ですから、前から横を通って いく、決して後ろからは抜き去らない。もちろん徐行 もするように気をつけます。工事現場もあれば、たま



には火事の現場もあります。風の強い日もあります。一番大事なのは条件に応じて活動するということです。

もう一つ、地域との信頼づくりが大きな仕事です。地元の垂井警察署に出発式というものがありま して、そこに私たちの青パトも参加させていただけるようになりました。

さらにもう一つ、学校との信頼関係も大事なことです。新1年生が入ったときには七つの学校でそれぞれ対面式を設けています。まずは、私たち自身の顔を子供に知っていただく、同時に先生にも認知していただくのが信頼の第一歩です。





最近では、学校の中にまでご招待いただけるようになりました。小学校4年生の社会科の授業で、ボランティアとは、青パトの活動とは、というお話をさせていただいています。一番の夢は、聞いてくれた男の子、女の子から、「大人になったら青パトに乗りたいな」という子が一人でも現れることです。

基本中の基本の活動は、下校時、校門での見送り活動です。これは子供のあいさつ、子供の笑顔、声の大きさ、表情を毎日、見ることが中心です。私たち自身ベテラン隊員から新入隊員に心得を伝達する貴重な現場でもあります。車に乗っているときは、そう簡単には言えません。しかし、こうやって静止したときがチャンスです。





それから、皆さんがおっしゃっているように、啓発活動は永久的な仕事です。私たちは平成22年に 有志によって、「百日紅」という劇団をつくりました。岐阜県では「セーフティファイブ」という呼び 方をしていますが、全国的には「五つの約束」を、手づくりの紙人形での寸劇によって子供に教えて います。合言葉は「お・ち・ついて・ひと・は」です。 「お」は大(おお)きな声を出す。「ち」は変な人に近 (ちか)づかない。「ついて」は変な人に付いて(つい て)行かない。「ひと」は一人(ひとり)にならない。 「は」は何があったか、家族や学校に話(はなし)をす る。基本ですが、これを毎回、学校でやっています。

同時に今度はカルタです。これは私たちが熱心に行ったことの一つです。まず、1年分のパトロール日報から私が読み取り、字札をつくりました。その字札を地元の



公民館活動の絵手紙の先生にお見せしたら、すぐに無料で絵札を 45 枚つくってくれました。私たちはそれを大事にして、新聞紙の半分の大きさまで拡大したものをつくって、体育館でカルタを使った啓発活動を各小学校で開始しました。これの文言ですが私が整理したときに、奇しくも四つのジャンルに分かれました。これは初めからそうなったわけではなく、結果的にそうなりました。まず第一は、連れ去りに関すること、二つ目は家族と家庭に関すること、三つ目は地域と学校に関すること、最後の四つ目はボランティアに関することです。これを通じてすべての会員が同じことを考えていることが分かりました。これからの私たちの夢、目標は、その一つひとつに力を入れていけば、きっといつかは子供の安全な体制ができるということです。これが私たちの原点という意味で、ここに書かせてもらいました。





体を使った訓練も大事です。地域安全月間で毎年、必ずやるのが小学校と一緒に「こども 110 番の家」へ逃げ込む訓練です。このときに、いろんな団体と協調しながらやりますが、一番のポイントは私たち自身が犯人役をやることです。なぜかというと、犯人役をやるには、いろんなことを自分たちで研究しなければいけません。子供たちは真剣です。ですから、毎年、新しいノウハウが出てくる。私たちは、七つの小学校を一つずつまわって訓練していきます。

また、小さいお子様にどのように青パトを知っていただくかということですが、写真のように、園庭に青パトを入れて、子供に触っていただいたり、私たちの話を聞いてもらい、青パトをより身近に知ってもらうことも大事なことだと思っています。

もう一つ、角度を変えて、行政との関係づくりも非 常に大事です。垂井町は通学路安全点検を毎年やって いますが、私たちボランティアをここへ組み込んでく れました。各地区の通学路に詳しい地元の隊員を入れ て、実績のあるお話をさせていただいています。

冒頭、申したように、私たち自身は決して若くはあ りません。ですから、自分たちも健康でないといけな い。健康ウォーキングのねらいには、それがあります が、本当のねらいは、通学路で、まず子供と一緒に「子



青パトをより身近に・・・

ども 110 番の家」を確認して、札があるか、汚れていないか、そして、もう一つ、危険箇所が新しく 加わっていないかということを点検しています。さらに、ごみを拾いながら地元の方とのコミュニケ ーションづくりをする。これも大事だと認識しています。ですから、学校、PTA、各自治会も参加して いただいて、健康ウォーキングに取り組んでいます。





犯罪だけではなく、災害から身を守る、自分の身は自分で守るということも大事なことです。もう 一つの活動は、県から地震体験カーを借りまして、消防署とコラボして、子供と一緒に震度フを体験 するということもやりました。

いろいろやっているわけですが、今度は地域の方、あるいは行政、警察の方にお世話になっていま す、という感謝のイベントを見守り隊主催でやっています。会員の中にはセミプロ的な人がたくさん います。そういった方の発表も兼ねて、教育委員会の後援を得てやっています。





同時に、子供さんとの接点として、いろんな活動を一緒にやる前に、何か気持ちを形に変えてということで、私たちは自分たちで手づくりのものをつくっています。この写真は青パトのプラ板をつくって、それを組みひもにくくりつけたストラップをつくって、子供に差し上げて、非常に喜んでいただいています。このほかに花の種の袋を配ったり、手づくり感を出していこうとしています。



それから、青パトは実施者証が必要になります。実

施者証は必ず更新しなければいけません。その更新の講習をするときに、いろいろ考えると、どこまでいっても青パトの問題点は、「どんな人が運転しているの?」「誰が運転しているの?」という地域の方の不安感ではないかと思います。これは当たり前だと思いますから、不安感を払拭するという、もう一つの仕事があります。これは警察との緊密なコミュニケーションを意識してやるということが大事です。ですから、毎月最終週金曜日は、そういう時間にしており、地元の警察署は一人でも、そういう人がいれば、出前で講習をやってくれています。いままで、隊員の人数が増えてきたのは、この制度が効いているものと思います。

県には「安全・安心まちづくりリーダー養成講座」があり、私たちもここで次期リーダーの卵を育てさせていただいて、防犯リーダーに必要なノウハウを習得しています。

事務的なことですが、67~68 歳になりますと、事務はあまり好きではないという方も多くいます。 パトロール計画表も工夫していまして、翌々月の都合のいい日を聞いて、それを翌月に決定していま す。





毎月、1回の例会を通じて、そういうサイクルで回しています。毎日、2台、動かすということは4人ずつ必要です。学校は20日間ありますので、80名が毎月動くわけです。人間は生身です。冠婚葬祭も飛び込みます。従いまして、月1回でいいよ、という形でやってきているわけですが、先ほど説明した98名ではまだまだ足りません。その場合、月に2、3回をお願いしますが、引き受けてくれる人もいます。会員を募集するときも、ドタキャン大歓迎だよ、ということでやっており、非常に柔ら

かい集団だと言っていただいています。

また、オリジナルな乗務表も作っています。車に乗ったら、自動的にどこを回るか、学校は何時にだいたい帰るかなどを分かるようにしており、加えて始業点検、終業点検がピシっとできるように乗務表にその点検項目が全部入っています。私たちの1日の仕事は、車止めをして、ワイパーを立てて、お互いに号令をして「お疲れ様でした」と、これで任務が終わるわけです。これをずっと続けています。



現在8年目に入りましたが、おかげ様で8月末現在、

青パトの走行キロ累計が13万5,789キロです。地球を今、4周目に入ったということです。関わった 隊員、乗った隊員数が1万3,000名を超え、この体制の持続をいかに行うかが、これからの課題です。

		ンな乗務表 域の配分から
守り隊	主運転者 助運転者 添乗員 発時。	044) 刻 着時刻 巡回距離(k) 給油(l)
(日)	北部	東京代表佐合原
	時間 学年 時間 学年 時間 学年 時間 15:15 15:25 15:25 15:05	字年 時間 学年 時間 学年 時間 学年 15:00 15:15 1-2年 15:20 1年
	16:15 16:00 16:15 16:00 2-	5年 15:50 16:15 16:10 2-6年 2-6年
始	 業・終業の点	→ 検までチェック

青パト活動実績					
	年 度	総走行距離(km)	延べ乗車人数	会員数	
	H20年度	17,903	1,502	37人	
	H21年度	19,484	1,862	51人	
	H22年度	19,615	1,916	64人	
	H23年度	18,093	1,772	72人	
	H24年度	17,922	1,810	85人	
	H25年度	17,928	1,788	94人	
	H26年度	17,917	1,870	96人	
	H27年度 (8月末)	6,927	728	98人	
	累計	135,789	13,248		
活動	か持続	をいか	こ行う	かが重要	

そして、それをじっと見ていただいている周りの方々、車の資金を提供していただいたり、ドライブレコーダーを設置していただいたり、テントをいただいたり、これはひとえに感謝以外のなにものでもございません。

一昨年は文部科学大臣表彰を受賞しまして、学校安全ボランティア活動奨励賞をいただきました。 これも非常に励みになっています。

最後になりますが、これらのことは「青パト 垂井」打ち込んでいただくと、ホームページで見られます。これも手づくりのホームページで、すぐに情報を載せています。





さらにこの情報発信力を向上していくことに努めたいと思います。



今後の課題

今後の課題は、第一に、隊員のさらなる確保と、平均年令の引き下げです。そして垂井町にある法人企業との新しい関係づくりです。また、行政的にいうと、今、垂井町は七つの「まちづくり協議会」をスタートさせています。こういう協議会や各自治会との連携活動を踏まえて、オール垂井で犯罪を抑止して、子供の笑顔が絶えない町にしていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

今後の課題

- ・隊員の確保・平均年齢の引き下げと、法人との関係づくり。
- ・町内のまちづくり協議会や各自治会との連携、「オール垂井」で犯罪を 抑止する!

ご静聴 ありがとうございました。

特定非営利活動法人 こども見守り隊

質疑応答

●質問 プログラムに「みんなの眼、地域の芽、青パトの目」のメが3種類、漢字が別ですが、何か意味があるのでしょうか。それともう一つ、眼の一つは、この中に出てきているのですが、あと二つのメはどのようなものなのか、よろしくお願いいたします。

○回答 ありがとうございます。まず、最初のメは眼(まなこ)ですが、人間がパトロールするということで、地域安全というものは人数×目玉だと思っていますので、一人でも多く、携わる人が増えたらいいという意味の眼(まなこ)です。二つ目のメは、芽吹くです。いろんな町づくりを兼ねて、他団体と協同して、学校等とも連携して、コラボの連続だと思います。とにかく、そういうボランティアの芽をつくることが大事だと。最後は、私が最初に立ち上げたとき、感覚的にそう思ったのです。青パトに勝るものはないだろうと。ただ、どうやって、それを運営して、仕組みにしていくか。それはわけも分からず、始めましたが、青パトの目というのは、そういう意味で、今も信じてやっている目です。

●質問 NPO 化されていますが、NPO 化した理由と、今後、法人格を使って、どういったことをする予定なのか、教えてください。

○回答 まず NPO 化した意味は資金面です。資金面は大事です。そうかといって、私たち、六十数歳の者がそう簡単にお金を集められるとは思っていません。従いまして、町の議会を通すということが頭にありました。どうやって議会を通すか。これは法人格でないとクリアにお金が示せません。NPOであれば、法律に従って、きちんと情報が開示される。毎年、県にも報告するということで、法人格を取りました。

それから、法人格を取ったことによる、今後の課題ですが、高齢化をストップさせることです。普通にやっていたら、どんどん年を取ってしまう。垂井町には大きな会社があります。その会社の総務部長が言うには、65歳までは駄目だけど、65歳を超えたら、いろんな機会で会社をあげて、ボランティアに協力するように広報活動もするということも言っていただけるようになりました。そういう意味で、法人格を使って、法人格の相手にお願いするという狙いです。